



＼税理士が教える経営に役立つ税制情報／

TAX & LAW



TKC近畿兵庫会姫路支部
広報委員 世良真一

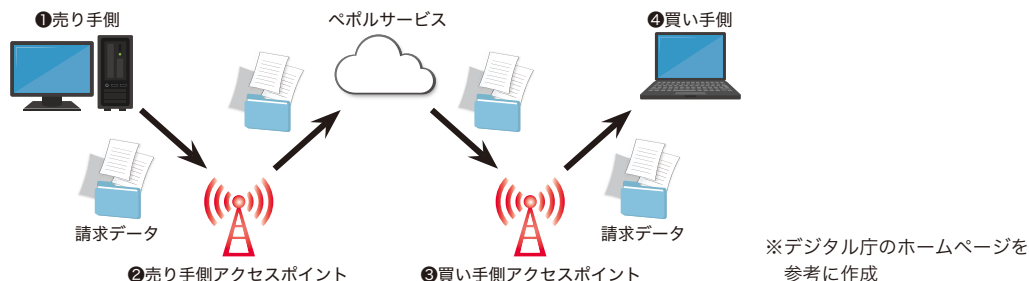
これから増える？「Peppolをベースとした電子インボイス」とは

インボイス制度の開始後、PDFをはじめとする「電子インボイス」を受け取っている会社も多いことでしょう。電子インボイスの一種で、世界各国はもちろん、日本でも現在導入が進んでいる「Peppol（ペポル）をベースとした電子インボイス」について解説します。

世界規模で採用が進み日本も2021年に導入

「Peppol」とは、受注や請求に係る電子文書をネットワーク上でやり取りするための国際標準規格です。ベルギーにある国際的な非営利組織「OpenPeppol」が管理しており、現在はEUをはじめ、シンガポールやオーストラリア、ニュージーランドなど30カ国以上で採用されています。

日本では、2021年9月にデジタル庁がOpenPeppolのメンバーとなり、国内におけるペポルの管理局「Japan Peppol Authority」として、ペポルネットワークでやり取りできる電子インボイスの標準仕様を策定・管理しています。



異なるシステム間での電子データのやり取りが簡単に

Peppolをベースとした電子インボイスの特徴のうち、PDFや専用のEDI（電子データ交換）システム等の一般的な電子インボイスと大きく異なる点は次の通りです。

- 送信／受信側が同じシステムを利用していなくても、データのやり取りが可能であること
- 受信側のシステムが発行者名や品名、取引金額等のインボイスの記載事項とその内容を正確に読み込めるので、請求書の確認や仕訳入力が楽になること

専用のEDIシステムを導入する企業も増えてきましたが、請求書を受け取る側の企業からは「操作方法が分かりにくい」「企業によって扱うシステムが異なるため、請求書処理のたびに複数のシステムを起動してかえって手間が増えた」といった声も聞かれます。Peppolをベースとした電子インボイスの利用によって、このようなインボイスの発行・確認に係る作業やコストを大幅に削減することにつながります。

参考文献：「事務所通信2024年1月号」（TKC出版）

